

[宮城県農林水産部農村振興課]

2015.1.17～2015.2.1 短期派遣専門家調査団 活動報告書

草の根技術協力事業（地域活性化特別枠）

「マラウイ国農業水利人材能力開発支援事業」（H25～H28）

2015年3月

宮城県農林水産部農村振興課

Rural Development Promotion Division,
Agriculture, Forestry and Fisheries Department,
Miyagi Prefectural Government, Japan

1. はじめに

草の根技術協力事業（地域提案型）は2011年に開始し、現在は第2期事業（地域経済活性化特別枠）の「マラウイ国農業水利人材能力開発支援事業（以下、「本プロジェクト」という。）」として第1期事業から数えて4年目の活動を実施中である（宮城県からの継続的なJOCV派遣は2010年に開始し、現在5年目）。

今回、本プロジェクトの進捗や課題の確認及びデッサ州でのセミナー開催等のために、2015年1月18日（日）～1月29日（木）の日程（全行程は1月17日（土）～2月1日）でマラウイ国を訪問した。

1. 短期派遣職員

宮城県農林水産部次長（技術担当）	菅原喜久男（団長）
宮城県農林水産部農村振興課技術主査	菅野将央
宮城県農林水産部農地復興推進室技術主査	大場 喬
公立大学法人宮城大学食産業学部教授	郷古雅春

2. 現地同行者

デッサ州灌漑事務所	Assistant Irrigation officer	ドミニク・バンダ
	技師	工藤貴文（JOCV 26-3）

3. 派遣日程

2015年1月17日（土）～2月1日（全行程）

うち、マラウイ国滞在は1月18日（日）～1月29日（木）

4. 現地活動内容

- (1) 宮城県派遣 JOCV の活動状況調査及び課題等の検討
- (2) 草の根技術協力事業の進捗の調査及び課題等の検討
- (3) 技術移転セミナーの開催（デッサ）
- (4) 機材の供与及び使用方法等の指導（測量機材、車両の交換部品等）
- (5) 宮城県派遣 JOCV の生活環境等の調査

略語表

ISD	Irrigation Services Division	広域管区灌漑事務所
DIO	District Irrigation Office	県灌漑事務所
DADO	District Agricultural Development Office	県農業開発事務所
EPA	Extension Planning Area	末端農業普及所／地区
JOCV	Japan Overseas Cooperation Volunteers	青年海外協力隊
C/P	Counterpart	カウンターパート

Ⅱ. マラウイ政府農業、灌漑及び水資源開発大臣及び灌漑局幹部表敬

1. 農業、灌漑及び水資源開発大臣表敬

今回の派遣では、灌漑局長ジェフリー・マンバ氏並びにマラウイ国側のカウンター・パート（以下 C/P）であるリロングウェ管区灌漑事務所（Lilongwe Irrigation Service Division；以下リロングウェ ISD）部長サングァニ・コーサ氏の取り計らいにより、1月21日、Dr. アラン・チェンベゼカ大臣への表敬が実現した。大臣には、1月初旬からの豪雨によるマラウイ南部の洪水被害へのお見舞いを申し上げるとともに、2010年に開始した宮城県からのJOCV派遣事業及び2011年からの草の根技術協力事業の成果を伝え、今後の活動目標について説明を行った。特に宮城県側からは、農業土木技術者の育成と大学教育と行政の連携が、マラウイ国のフード・セキュリティに寄与するものであり、2期事業においては人材育成を重視していることを説明した。マラウイ政府は、ハード事業と共に本プロジェクトの事業目標である農業土木技術者の育成を重要視しており、事業目標がマラウイ政府のニーズに合致し、かつ妥当なものと確認できた。なお、大臣からは、日本国並びに宮城県への感謝の言葉を頂き、かつ今後の事業継続についても要請された。

表敬後、大臣とマンバ氏の打合せが行われ、マンバ氏から大臣は本プロジェクトの趣旨を理解し、大臣並びに事務次官は本プロジェクトの遂行において、完全に支持することであった。

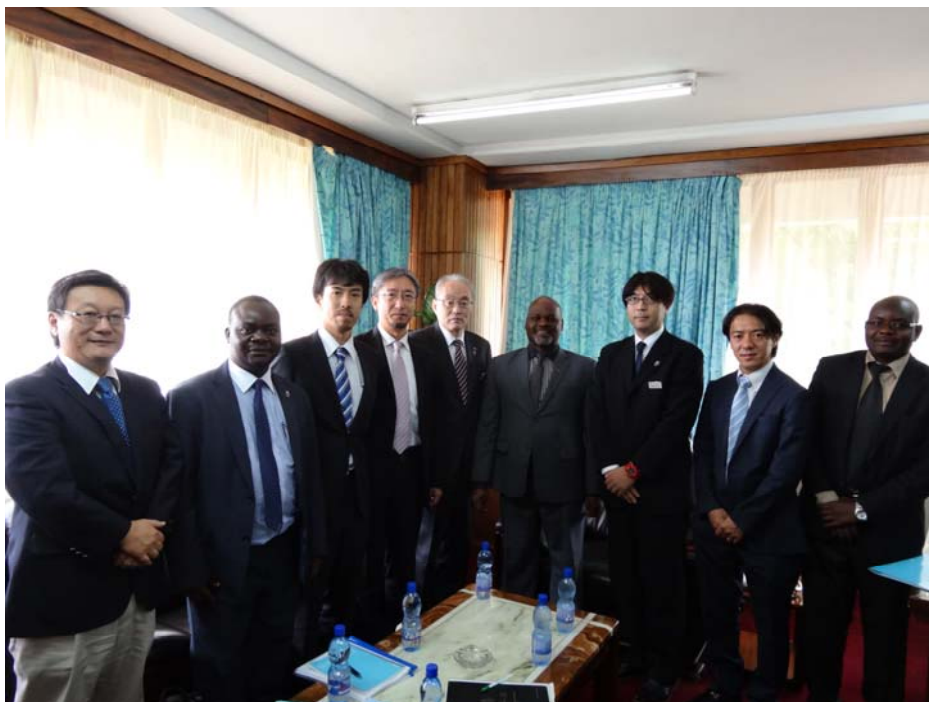


写真1：大臣室で記念撮影（中央：菅原団長左が大臣）

2. 灌漑局並びにリロングウェ管区灌漑事務所幹部表敬

1月19日に前述したマンバ灌漑局長及びコーサ氏、さらにペーター・チペタ中央州灌漑・水資源開発官（Central Region Irrigation and Water Development Office）に表敬及び意見交換を行った。マンバ氏及びチペタ氏は2012年に、コーサ氏は2014年に研修生として宮城県に招聘しており、日本の灌漑事情を理解している。以後チペタ氏、コーサ氏は本プロジェクトのC/Pとしてマラウイ国内での円滑な活動のために協力体制を組んでいる。

意見交換において、これまでの活動に高い評価を受けるとともに、2期事業以後の継続要請があった。現在進行中の事業内容については特に異論はなく、大筋合意した。



写真 2, 3 : マンバ氏, コーサ氏との意見交換 (2015. 1. 19)



写真 4 : チペタ氏と意見交換 (2015. 1. 19)



写真 5 : コーサ氏と意見交換 (2015. 1. 19)

Ⅲ. リロングウェ農業大学ブンダカレッジ訪問

リロングウェ農業大学 (Lilongwe University of Agriculture and Natural Resources ; 以下 LUANAR) は、マラウイ大学から農学部門が独立しかつ、2014年1月の短期派遣において訪問したナチュラル・リソーシズ・カレッジ (Natural Resources College: 以下 NRC) と合併した大学である。マラウイ大学農学部時代から、農学に関するマラウイ国の最高学府であり、灌漑局幹部の多くが同校を卒業している。また、NRC も多くの灌漑省職員を輩出している。大学ではまず、宮城県のプロジェットの概要、調査団の目的、宮城大学食産業学部の概要について説明した。今後本プロジェクトにおいては、人材育成のためには、大学教育が重要であり、特に灌漑分野は大学教育と行政の現場との連携が必要であると考え、同校にもその旨の説明を行った。マラウイ国に灌漑分野に関する学会等はないため、大変興味を示し、たとえば英文の学会誌等に共同で本プロジェクトの活動等を発表するなど、まずはできるところから、ステップバイステップで交流を進めていくことで合意した。

意見交換後、キャンパス内を案内していただき、講義室、図書室、水理実験室等を確認。機材の中に日本製のものがあり確認したところ、以前 JICA プロジェクトが行われ、専門家も駐在していたとのことだった。水理実験機材については故障のためか使用している状況は見られなかった。



写真6, 7 : 大学での意見交換の様子 (2015. 1. 20)



写真8 : 故障した水理実験器具



写真9 : 学内の図書館

LUANAR が設立されたことにより、以前に比べて NRC で単位を取得した学生が同大学に進学がしやすくなったということであった。これは、農業土木分野の技術者養成の土壌は整いつつあり、今後さらに学生のレベルアップが期待される。また、行政側としては、灌漑施設建設後のモニタリング等において、これまで以上に大学のリサーチ部門と連携していくことを求めており、本プロジェクトにおいて何らかの大学との連携プログラムを実施することで、マラウイの農業土木の技術向上および知識の集積に高い効果発現が期待できると予想する。

IV. 技術移転セミナーの開催

1. デッサ州行政庁及びデッサ州灌漑事務所訪問

1月22日に、23日のセミナー開催に先立ちデッサ州行政庁に表敬訪問した。州行政長官は、先般の洪水災害がデッサ州南部に及んでいたため、現地視察のため不在であったが、デッサ州開発計画官である、ハンフリー・ゴンドゥエ氏と会見した。改めて本プロジェクト内容と技術移転セミナーについて説明を行った。ゴンドゥエ氏からは、これまで3人の行政長官が歴任しているが、本プロジェクトの実施内容は行政長官の間で引き継がれており、行政長官は事業内容を理解し、高い評価をしている旨の報告を受けた。

行政庁訪問後、デッサ州農業事務所と歴代 JOCV の勤務先であるデッサ州灌漑事務所を表敬訪問し、マイケル・チェヨ農業事務所副所長並びに6名の灌漑事務所職員、2名の NRC からのインターンと会見し、意見交換を行った。



写真 10, 11 : デッサ行政庁表敬 (2015. 1. 22)



写真 12 : デッサ県農業事務所 (2015. 1. 22)

写真 13 : 灌漑事務所職員と記念撮影

2. 技術移転セミナーの開催

2015年1月23日に、チペタ氏、ゴンドウェ氏をはじめ、灌漑省およびデッサ県内 EPA 職員約39名を対象にセミナーを開催した。

セミナーの内容は、宮城県から5課題、2014年研修生から日本での研修報告を行った。内容は以下の通りである。

- ① 日本の河川灌漑における農業用水の管理について
- ② 土地改良区組織の紹介
- ③ 東日本大震災の被災地における GIS を活用したほ場整備の推進について
- ④ 粗朶工法について～適正技術の紹介と実践～
- ⑤ 宮城大学における技術者教育の目指すもの

⑥ 日本での研修報告 (2014年研修員ブレイヴ・ムダザ、ブレッシングス・チクセ)
 セミナーでは、日本における研修成果報告、灌漑管理、適正技術としての粗朶沈床、GIS、大学教育における灌漑技術者育成について講義した。内容はバラエティに富んでおり、短時間で盛り沢山の内容を受講者に理解してもらうことに懸念があったが、講義終了後の活発な質疑応答からみて、受講者から概ね好評であったと思われる。特に、折からの洪水被害と重ね合わせ、自然素材を活用した粗朶沈床には皆興味を持ったようであり、現地に適合した技術の必要性をうかがわせた。なお、粗朶沈床については、今年度及び昨年度の研修員が来日した際に粗朶の束ね方等を実習しており、マラウイ側ではすでに技術導入を検討中である。今回、研修先の技術協力を得て製作のための器具を現地

で複製し供与し、パイロット地区において実験的な施工に取り組む予定である。



写真 14 : ドミニク・バンダ氏が司会



写真 15 : チペタ氏の開会挨拶



写真 16 : 菅原団長挨拶



写真 17 : 郷古教授による発表



写真 18 : 大場技術主査発表



写真 19 : 菅野技術主査発表



写真 20 : チクセ氏発表



写真 21 : ムダザ氏発表



写真 22 : セミナー参加者の全員で記念撮影

V. 本県 JOCV 派遣者の生活圏調査

第二期 JOCV の住居を予定通り割り当てられており、安全面、衛生面等、(日本とは比較にならないものの) 特に問題の無いことを確認。3代目の JOCV ということもあり、マラウイ側 C/P の配慮に加え、先代までの JOCV の残した生活物資も比較的揃っており、特に生活に支障を来している状況はみられない。しかし、インターネットの接続状況が歴代 JOCV の赴任時に比べ悪化している。安全確認や円滑な業務遂行のため今後改善が必要である。



写真 23, 24 : 住居外観

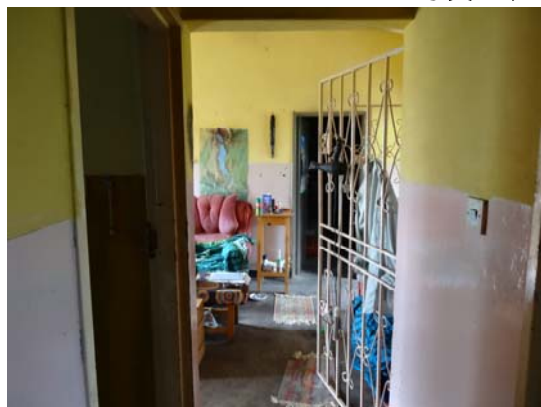


写真 25 : 住居内の状況



写真 26 : 通勤路を確認